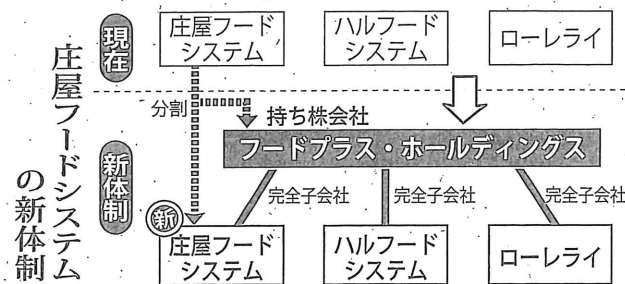


「庄屋」関連3社を再編

フードプラスHD 発足へ

上場視野に財務強化

外食の本県大手、庄屋フードシステム（佐世保市）の中村信機社長は、同社など関連3社を再編し、4月1日から持ち株会社制に移行する。「フードプラス・ホールディングス（HD）」の傘下に完全子会社化する3事業会社を置く。長崎新聞社の取材に22日、明らかにした。財務基盤を強化し、5年後の上場を視野に入れる。



関連3社は、主力の庄屋フードシステムのほか、「定食屋白菜」などを展開する「ハルフードシステム」、市内で二つのホテルを運営する「ローレライ」。いずれも中村氏が社長を務め、同じ株主構成になっているが、会社間の資本関係はなかった。

再編では、庄屋フードシステムを分割して、同HDと完全子会社の新「庄屋フードシステム」を設立。株式交換の手法で、ほか2社を同HDの完全子会社化する。新「庄屋フードシステム」の社長には、同社の犬島寅彦専務が昇任。同HDとほか2事業会社は当面、中村氏が社長を続けるが、「将来的に事業会社の社長には、生え抜きの優秀な社員を充てたい」（中村氏）としている。

庄屋フードシステムなど3社は現在、九州・山口を中心に「レストラン庄屋」など計127店舗を展開。単純合算した2016年3月期の売上高は、前年比7億円増の約107億円、経常利益は同7千万円増の約3億6千万円で、5年連続の増収増益となる見通し。

今後はグループ全体で年約10店舗を出店する計画。上場により、知名度や信頼度を高めながら優秀な人材を確保し、さらに店舗展開を加速させたい考え。

（宮本宗幸）